

「体育祭 HOW MUCH」 重枝流・実践授業風景

先日、「風土会」でも使用している「実践授業」の入ったビデオテープを1本、重枝先生からお借りしました。その中に、「体育祭 HOW MUCH」の授業風景が入っていました。

私も昨年、自分のクラス(3年生)で行ったエクササイズです。中学校最後の体育祭ということで、特にリーダーが「勝利」にこだわり、練習でもピリピリしたムードが漂っていた頃、このエクササイズでみごとに子ども達に変容していきました。「勝つ」ことよりももっと「価値」のあることに気づいたからです。それは、「友情」であり「団結」であり「責任感」であり「応援」であり「思い出」なのだと・・・。

それからは、まずリーダーの「言葉」が変わっていきます。相手を責めるような言い方は、まったくなくなります。代わりに「勝つことよりも、もっと大切なことがあったろうが」「あの授業を思い出して」「団結しよう」「最高の思い出をつくろうよ」といった前向きな言葉が、生徒同士で交わされるようになりました。

全体もピリピリしたムードは消え、あたたかな中にも「最高の思い出をつくるんだ」という共通した意識が生まれていました。自然に、応援し合い、励まし合う行動がみえ始めました。

結局、見事に「優勝」！！勝因は、個人種目ではありませんでした。団体種目である「行進」や「応援合戦」、そして「大縄」でした。そのことがまた、象徴的であり、何よりも嬉しい「思い出」となりました。

このエクササイズを、重枝先生は体育祭の後に行っています。ちょっと見てみようと思い軽い気持ちでビデオを見始めた私も、1人の生徒になって、重枝先生の授業に引き込まれていきました。こんなやり方もあるんだと、深く深く「感動」しました。その「感動」を、ここで紹介させていただきます。

「風土会」は教育の「本質」「根本」にこだわっています。この授業を見ながら、やはり「教育は人なり」だなあ～と実感しました。生徒にとって「教師」は大きな大きな「環境」です。教師が自分の人間性を広げ、深め、高めることこそがすべてのスタートなのです。「生徒を変えようと思うなら、まず、自分が変わる事」なのだと、私自身、この「風土会」から学んでいます。次に紹介する「実践授業」も、きっと先生方への大きな刺激になるだろうと思います。重枝先生がいつも話されているエッセンスもたっぷり、感じ取ることができると思います。

ただ、これは「重枝流」であって、ひとつの例にすぎません。この通りにやればいいのかというのでは、決してないのです。「自分流」を見つけること。それが何よりも大切です。

「自分の持ち味を生かす」「自分らしくある」「常に自分が変わっていく」

「風土会」は参加されている先生方「個人」の「力量」を上げていくことを、目的としています。少しでも何かのヒントになれば、幸いです。

※授業は班形態で行われています。

「体育祭でみんなはたくさんのかんことを経験したと思いますが、そこは君たちの財産にしていかないとけない。“財産”という言葉をつかいましたけど、今日はこういうタイトルで（黒板に「体育祭 HOW MUCH」と板書）あだ名をつけているんだけど……」
重枝先生が黒板を指しながら「体育祭？」生徒が「ハウ・マッチ」と答える。

「ハウ・マッチって意味わかる？」

生徒が「いくらですか。」と答える。

「そう、いくらですか。」

「体育祭、タダですよ。」と生徒から声があがる。

「そう、もちろんタダですよ。お金にする方がおかしいんですよ。だけどよ、財産としてはどうか、心の。今日は、実際に金額におきかえて、あなた達に“価値”というものを考えさせたいと思います。」

「目をつぶってください。班長は後で忙しくなるので、まずは班長以外の人全員に発表してもらいます。体育祭で何を得ましたか。一言で言ってください。1分間考えよう。」

生徒達は、真剣な表情で目をつぶっている。考えている雰囲気。

「体育祭で何を得ましたか。いろんなことがあるね。この教室の中にも、いっぱい言葉がある。目をあけて見まわしてもかまわない。自分が体育祭で一番大切だったこととか、自分が気づいたこととか、そういうのを一言で今から発表します。あと30秒。目をあけてもいいよ。見まわしてもいいと言ったよ。その言葉はひとつ。文じゃない。ひとつ。」

目をつぶったままで考え込んでいる生徒。静かに教室を見まわしている生徒。真剣に考えている学びのムードに包まれている。

「はい、やめ。」

「班長以外の人。」生徒をあてて「一言。」「立って発表しよう。そして座れ。」

生徒、立って「思いやり」

重枝先生、黒板に板書「思いやり」

次の生徒「協力」 黒板に板書「協力」

その次に、言えない生徒がでる。

「何でもいい。言おう、一言。」しばらく待つが黙ったままの生徒。

「また、後でまわってくるぞ。」 とぼして次へ。

ここから次々と発表・板書

「努力」「優勝」「団結」「友情」「楽しむ」

「おまえら、すごい。後でわかることだけど。」

また、つまる生徒。

「同じ事でもいいよ。」

「パニックになるな。パニックになるな。本番に強い男になれ。」

じっと考える生徒。「あきらめない」と答える。

また、次々に発表。「団結」「チームワーク」

「絆です。」 ちよつと生徒から笑いがおこる。

重枝先生「熱いねえ。字が一番かっこいいね。絆。」

次の生徒「達成感」

「このクラスには、こういう言葉がいっぱいあるはず。」

続いて生徒が発表。「喜び」「てきぱき」

「おもしろいな。」

最後に、もう一度発表できなかった生徒にあてる。

生徒はまた、黙り込む。

「班長さんは後でもっと大変なことが待っている。これは全員クリアしないとイケないことだ。」黒板を指しながら、「ここから選んでもいいですよ。」

「思いやり」生徒が答える。ホッとした雰囲気。

「それでは前を向いて。」

「さっき先生が、みんなすごいなあ～って言ったのは、実は、この体育祭 HOW MUCHのワークシートを先生つくってきました。こういう言葉を(黒板を指しながら)先生なりにいっぱい挙げた。けっこうみんなのと、かぶっているんです。しかしね、君らが考えたのと21年間中学校体育祭につきあっているからね。プラス3は自分の中学校の時の3年間ね。考えたときに、まだいろんなことがあると思う。このワークシートを見てもらったらわかると思う。これらの言葉で(黒板を指す)自分が最も価値をおいていることに関して、今から値段をつけてもらいます。」

ワークシートを配る。(ワークシートを最後につけています。参照してください。)

「お金で買えない。これはあたりまえのことです。これは本当にあたりまえのことです。そこをまあ～ちょっとおいといて、意識をしっかりとつためにね。考えていきます。まず、ワークシートの右上に名前を書いてください。」

「言葉を書き込んでください。」

黒板の板書

私の価格では

$$\begin{array}{|c|c|} \hline \text{団} & \text{結} \\ \hline \end{array} + \boxed{} + \boxed{} = 100 \text{万円}$$

30万

例えば団結、そして30万なら30万と書いて、この足し算が100万円になるようにします。価格を変えたかったら変えてもらっていいです。ようするに、これも大切、これも大切と思ったら、たくさん買いたいなら、値段をどうする？低くするしかないわけね。そこは自分で勝手に変えていいです。4つは買えるよね。30万3つと10万ひとつ。経験してというのをまず、最初の言葉にもってきてください。今回の体育祭を経験して、私は、こういう風に考えました。理由もつけてください。まとめて何を買ったかを最初に言ってもいいです。それは自分で考えて、みんなに伝わるような言い方をきちんとして下さい。」

「さあ、〇〇君が準備ができたようです。班長さん以外はおもいきりボディリスして下さい。〇〇君、起立。前に出てきて。〇〇君の話聞こう。どうぞ。」

※注：○○には生徒の名前が入る

生徒が発表。「今回の体育祭を経験して僕は、楽しさと団結と勝利と思い出を買いました。理由は、楽しく団結して勝利すると、いい思い出になると思ったからです。」

「はい、拍手。」パチパチパチ・・・。

「今回の体育祭を経験して私が買ったのは・・・」

「もっと大きな声で、まわりもしっかり聞けよ。コチョコチョしゃべりもやめろ。」

班長が次々に発表する。(途中、省略)

「ちょっとみんなに気にしてほしいのは、今、班長さん達が買い物した以外を買った人は、チェックしておいてね。それでは、次の班長。」

班長が発表する。

それに対して、「はい、拍手。ちょっと早口だったよね。少し緊張したかな。ただ、コメントが一番多かったよね。言葉がつながっていたよね。要するに、関連づいていたよね。ここでもう一回、言えるよね。ちょっとゆっくりしゃべってみよう。」

班長は、今度はゆっくりわかりやすく発表。「今回の体育祭を経験して、友情と思い出と勝利と努力と連帯感を買いました。勝利するために努力する。努力するためには連帯感がある。連帯感があると友情が生まれます。それが思い出につながります。たとえ勝利できなくても、友情ができていたため、いい思い出になると思います。」

「はい、わかりました。さあ、今、発表してくれた班長さん達は、よく聞いとけよ。2番の『団結』、4番『勝利』、5番『応援』、7番『思い出』、8番『友情』、9番『楽しさ』、11番『努力』、12番『連帯感』、14番『一生懸命』を挙げていました。じゃあ、挙がっていないのは、1番の『練習』、1番の『練習』を買った人、手を挙げて。」1人、手が挙がる。

「練習はいらないか？はい、おろして。3番『責任感』買った人、手を挙げて。」2人の手が挙がる。このように、次々と手を挙げさせる。(途中、省略)

「16番、『個人の結果』を買った人？いなかったのは、『個人の結果』だけ。『個人の結果』というのは何かちょっとね。自分中心みたいな気がするんで、さけた人も多いと思います。6番の『準備』を買った理由を言ってもらいたい。」

手を挙げた、1人の生徒があてられる。「安かったから。」笑い声がおきる。

「安かったから。それ、理由になると思いますよ。先生が今まで会った生徒の中で、○○のような生徒がクラスに必ず1人はいた。0は今までなかった。君たちによく考えてもらいたいのは、みんなも準備したけど、毎時間毎時間、体育でグラウンドにラインが引いてあったり、マットとかああいう道具が出ていたり、体育の先生を中心に、毎朝やってたんだね。その準備がなければ、もしかしたら、いい練習ができなかったかもしれない。でね、準備というのは、ものすごく大切なんです。何をするにも。体育祭前日準備って1日だけが頑張って準備した人もいると思うけど、毎日、体育祭期間中、準備していた人もいる。体育委員の○○も、みんなよりも早く来て、準備している。これが何ていいのかな～というのは、心の片隅に思っておいてほしい。それと、やはり『練習』。たしかに『友情』とか『思い出』と言ったら、きれいに聞こえますよ。きれいな感じがします。『練習』と言ったら、何かちょっと、どろどろとした感じがする。でも、その『練習』って何ていい

のか。自分が選んだ逆の事を知れ。逆から見ろ。これがいつも先生が言っている、そうしなさいと言ってるんじゃない。何で練習を選ばんとや。何で準備を選ばんとやと、怒っている訳じゃない。みんなに生き方として知ってほしいのに、『自己盲点』という言葉がある。」黒板に「自己盲点」と板書。

「自分の知らない世界、考えつかない世界というのを、同時に考えていくということが、こういうこと。そしたらね、必ず成長できる。必ず、器の大きな人間になれる。いいか。今度は、グループで値段をつけなおせ。班で班長さんを中心に。そして、グループで共通に、グループの買い物を成立させてください。5分間。用意、はじめ。」活発に話し合いが始まる。

各班、板書で発表。

「〇〇班から、準備・練習・団結・友情・思い出。班で選んで、先生の話も入っていたせいかもしれないけど、さっき出てなかった、準備と練習がここに出てきてるね。」黒板に書かれている準備、練習に印を入れる。

「やはり自己盲点という、ちょっとした素直さが、やっぱり成長かなと思いますね。」

「〇〇班、また練習、準備がでてきた。」黒板に印を入れる。

このように、各班ごとにコメントを入れながら、先生が紹介していく。(途中、省略)

「先生が思うに、友情と思い出ってものすごく大切と思う。」黒板に書かれている、友情と思い出に線を引く。

「やっぱりね、大人になってもね、やっぱりここなんよ。ものすごく大切。1回、けんかしたかもしれないし、言い合ったりしたかもしれないけど、一生懸命何かしたときには必ず思い出に残る。何か友情が、新しい友情が芽生える。今までのぬるま湯的なつきあいじゃなくてね。ちょっと刺激が入った友情。大人の友情っていうのかな。そういう世界が生まれる。先生が選んだのは・・・」黒板に板書しながら・・・

「やっぱり練習を選びました。やっぱ、練習してなくて、何かうまく行って自分を勘違いすることが一番、人生で失敗しそうな可能性がある。何もしないで100点とれたとか、俺って天才、絶対、違おうが。絶対、練習がいたと思いました。」

「次に先生が選んだのは、全部20万で選んだんだけど、応援。」黒板に書く。

「別に先生と一緒にじゃなくて、ぜんぜんかまわない。自己盲点。先生はみんなのが、先生の盲点になっている。ものすごい勉強になりよう。応援というのは、実は高校の体育祭を経験しているから。先生の高校の体育祭。まあ、どこの高校でもすごいんだけど、本当に練習、特に応援練習の繰り返しなんよ。夏休みも全部出校。学校に行くわけ。これでもか、これでもかと、まだ練習すれば完成度が高くなるという風にやる。だから応援というのは自分の心の中にすごくある。」次に、「準備」と黒板に書く。

「それと、やはり先生になって気づいたことなんだけどね。これは中学生くらいの頃は何とも思わなかったんだけど、体育の先生がラインを引いてても、何にも感じなかった。それが体育の先生の仕事だろうくらいにしか思ってなかった。先生になってわかったね。これはものすごく大変な仕事でさ。朝から、石灰まみれになって。この準備だけど、朝からいろんな先生が掃除しているよね。校長先生もだけど。学校まわりを掃除しているよね。それも、みんなが学校に来る前の準備だよな。いろんなところに準備がある。これは先生

になって気づいたこと。」

次に「気合」と言いながら、黒板に書く。

「気合って言葉ひとつでね、何か前向きになれるんです。何かうまくいくような気になるんよ。気合い入れようぜって。実は今日、腰が痛くてたまらん。なぜでしょう？おとといナイターで社会人サッカーしよった。昨日ね、先生達、板付中と職員バレーの試合でぼろ負けしました。まじめに二日間運動したら、こんなになるっちゃねと完全おじさんやねえと悲しい思いです。昨日もね、板付中にうまい先生がおるったい。バレー専門の。どんどんサーブが入るったい。変化球みたいなのが。それを、校長先生とか飛びつきようったい。板付中は盛り上がるけど、こっちは暗〜く少しなりようわけよ。そんなときに必ず出てくる言葉が、気合よ。気合い入れていこうぜ、もう一回って。」

「誰が言ったんですか？」生徒から質問が出る。

「みんな言ったよ。先生達。気合しかなかったわけよ。向こうの方が技術が上やけん。気合。まあ、精一杯して負けましたけど、気合という言葉はね、前向きになれる。」

「そして、最後に先生は一生懸命」と言いながら黒板に書く。

「この言葉を選びました。オール20万円で100万円になりました。」

「こんな風に、どれを選んでも、何かあるよね。何かいいことがあるんです。だけど、自分なりの何かというのがね。やはり自分の心の中ないと、先生はダメだと思います。絶対ダメだと思います。何気なく何かをしたって何の成長にもならない。君らもスポーツしたり勉強したりする。恋愛したりする。この中の言葉の何をね、自分の心の中に描いてやっていくかということはとても大切なことです。」

それでは、気づいたこと、感じたこと、学んだことをワークシートに書きましょう。」

「は〜い！！」と思わず生徒になってしまいました。みなさんはどうでしたか？

「自分が選んだ逆のことを知れ。逆から見ろ。自分の知らない世界、考えつかない世界というのを、同時に考えていくということが、『自己盲点』という考え方。そしたらね、必ず成長できる。必ず、器の大きな人間になれる。」はいっ！私もやってみます。

「こんな風に、どれを選んでも、何かあるよね。何かいいことがあるんです。だけど、自分なりの何かというのがね。やはり自分の心の中ないと、先生はダメだと思います。絶対ダメだと思います。何気なく何かをしたって何の成長にもならない。君らもスポーツしたり勉強したりする。恋愛したりする。この中の言葉の何をね、自分の心の中に描いてやっていくかということはとても大切なことです。」はいっ！私も「きれいな世界」だけではなく「どろどろとした世界」の素敵さにも気づけるように、自分の心の中に描いてやってみます！自分なりの何かに、こだわりたいと思います。ありがとうございました。

福岡市立博多中学校 柴田 悦子